



台風19号被災状況を調査

街頭演説
3300日

山本新知事就任後、初の本会議質問に登壇。政策の抜本転換を提言！

群馬県議会リベラル群馬

後藤かつみ

2019年第3回定例会報告

CONTENTS

- I 重く厳しい県政の難題にも目を向けよ
- II 「幸福度向上」のカギは「3つの転換」

発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所
 住所 高崎市八幡町 800-24
 TEL&FAX 027-343-1393
 e-mail ccrgoto@af.wakwak.com

<http://www.ccrgoto.com/>
<http://www.eaglesgoto.com/>
 (スマートフォン用)

重く厳しい県政の難題にも目を向けよ

就任以来、抜群の知名度と発信力を武器に、パフォーマンス的な施策が先行する山本新知事に対し、後藤は、財政問題や来年度の「Gメッセ群馬」の運営など、本県が直面する難題にも正面から取り組むよう提言しました。

財政問題 厳しい実態がオープンに

大澤県政以降、税収が伸び悩む中で歳出を大幅に伸ばし続けた結果、かつては全国トップを誇った財政の健全度は大きく後退し、将来世代に大きなツケを残しかねない状況にあります。後藤が新知事に最も期待を寄せる課題がまさに「財政の立て直し」です。

山本知事は、早期に今後5年間の歳入歳出の見通し(中期財政見通し)を作成することを名言。10月に公表された見通しでは、毎年巨額の財源不足が生じるという厳しい実態が明らかにされています。

再建のための方策として、副知事をトップとした「行財政改革チーム」を発足し、次年度予算に向け徹底した事業の見直しを行う方針です。

中期財政見通し「県が初公表 年200億不足健全化推進

持続可能な財政運営の実現に向け、県は今後5年間の歳入歳出を当初予算ベースで推計した「中期財政見通し」を作成し、18日に初めて公表した。少子高齢化の進展で社会保障関係経費が増える一方、税収や交付税の大幅な増加が見込めないため、毎年200億円前後の財源不足額が生じると予測。積立基金を取り崩し、県債発行が増え続ければ大規模災害に対応できず、県民サービスに使える予算が減るとした。山本一太知事は同日の定例会見で、「行財政改革を通じて財政の健全性を確保する必要がある」と強調した。

10月19日付 上毛新聞記事より抜粋



現在建設中のGメッセ群馬 (高崎競馬場跡地)

3つの難題を同時にクリアできるか Gメッセ群馬

いよいよ4月に完成予定のGメッセ。しかし、大変なのは作ってから。今後、3つの難しい命題を同時にクリアする必要があるのである。

まとめると、①黒字運営となるよう稼働率を上げること。②県内の既存施設の需要を奪わないこと。③学術会議や展示会など、政策目的に合致したイベントに特化すること。となります。

つまり、黒字運営を維持しながらも稼働率を上げるためならばどんなイベントでも良いわけではなく、誘致するイベントの質も確保しなければなりません。後藤は、この命題を前知事の答弁どおり誘致補助金など作ることなくクリアすることは極めて難しいことであり、知事の発信力を活かしながら真剣に取り組むよう提言しました。

カギは県庁内に ノウハウ蓄積できるか

このような経営的な業務を役所は一番苦手としています。結果、運営委託する専門業者に「丸投げ」となり、失敗する懸念があります。

後藤は、そのためにも、県庁内に専門人材を育成し、専門業者に負けないノウハウを県庁内に蓄積できるかがカギとなることも提言しました。